

第 81 回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録**■開催日時**

2024 年 7 月 25 日 (木) 16:00～

■開催場所

東京都品川区上大崎 3-1-1 USEN 本社

**■出席者**

湯川 れい子 委員長
富澤 一誠 委員
品田 英雄 委員
長谷川 演 委員
和合 治久 委員

■局側出席者

代表取締役社長 貴船 靖彦
コンテンツプロデュース統括部長 山下 光儀
コンテンツプロデュース統括部編成部長 松本 茂雄
コンテンツプロデュース統括部制作部長 村田 徹
コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課長 小島 万奈
コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 三浦 祐司
コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 原 吉徳

【番組審議会事務局: 森角、北村、大園】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告
 - (1) 第 60 期第 3 四半期経営成績について
店舗サービス事業の売上・営業利益は、59 期比増収増益で推移した。
 - (2) 推し活リクエストサービスについて

音楽アーティストの「推し活」の一環として、誰でも参加できる楽曲投票サービス『USEN 推し活リクエスト』を 3 月 27 日より専用 WEB サイトにて公開し、楽曲リクエスト(投票)の受付を開始した。公開以降、好評をいただき、利用登録者数・累計リクエスト数ともに順調に増加している。

(3)新しい閉店音楽「Good Day ～閉店の音楽～」放送開始について

6 月 11 日より、新しい閉店音楽「Good Day ～閉店の音楽～」を放送開始した。この楽曲は、早稲田大学マーケティング・コミュニケーション研究所との共同研究によって得られた、閉店のイメージを持つ音楽の特徴を基に制作した USEN オリジナル曲であり、「DAISO」の国内全直営店含めた約 2,900 店舗においては、6 月 11 日より放送開始した。

(4)涼感 BGM 放送開始について

6 月 1 日より、音楽で感じる「涼」をテーマにお届けしている「涼感 BGM シリーズ」の放送を開始した。

2. 審議課題

「利用シーン」×「番組」

3. 【対象番組】

■B-16 HIP HOP

■B-23 ザ・ビートルズ

4. 審議

【放送局】

第 60 期は「利用シーン」×「番組」を審議テーマとする。今回は「B-16 HIP HOP」、「B-23 ザ・ビートルズ」の 2 番組を審議頂きたい。まずは、「B-16 HIP HOP」からご意見を伺いたい。

【審議委員】

「B-16 HIP HOP」は 40 代までの若い層・次世代の店舗オーナー層、HIP HOP に興味のあるリスナーをターゲットに、スポーツジムや美容室、バー、ストリート文化を演出したいシーンでの利用を想定しているという事だ。私はユニバーサルデザインという観点で町づくり活動をしているが、利用シーンを考えた時に、その場の雰囲気や環境にマッチした音楽はどの様なものなのかを考える。そこに身を置いたときに自身にとってベターなものなのか、その曲は本当にその場に集う世代に合っているのか、特に今回は 40 代までの若い層に合っているのか、リスナーの満足度にどれだけの影響を与えるのかという事がポイントになる。「B-16 HIP HOP」の場合は、例えばジムの様な場所に対しては、様々なリズムやテンポの筋肉活動が行われている中で、そこに整合性があるのか、スポーツブランド店に関しては、実際にスポーツに関わる方が来店すると思うが、その様な方に好まれる曲が流れているのか、または雰囲気に合っているのかという事を考えて選曲してみるかどうか。さらに、バー等の世代によって楽しみ方が変わる場所では、落ち着いて雰囲気に浸って静かにゆっくり飲むという世代も居る一方で、若い世代の方にその様な事を求めても難しいかもしれないし、世代間のギャップというも有ると思う。美容室も同様で、様々な世代の方が来店される場所に対しては、世代間の違いにも配慮して選曲してみるかどうか。それを踏まえて「B-16 HIP HOP」は、ジムやスポーツ店、或いはバーやクラブの雰囲気に対して「テンポやリズムが合っているのか」、明るさや快活さ、楽しさ、格好良さ等「若い世代に好まれる要素が 1 曲 1 曲に含まれているのか」という点に着目して聴いたが、半数はテンポやリズム、明るさがスポーツやエクササイズの場合に合う要素を持ち、もう半

数は美容室やクラブ、バーに合う要素を持っていると感じた。中にはモノトーンと言おうか、単調過ぎる曲が有り、明るさに欠くのではないかと感じたが、概ね快活なテンポやリズムが非常に良いので、海水浴場や遊園地等利用シーンの幅が広がるのではないかと。

【審議委員】

コメントする時の基準として、点として1曲1曲が良い曲かどうか、線として番組全体に統一感が有るかどうか、そして一番大切なのが、商業空間の中でどの様な空気感を作り出すかという事を念頭に置きながらコメントさせて頂く。結論としては良い選曲で、ある意味今っぽく、曲だけで特別な空気感を作っているという事は非常に良いと思う。一方で、私はソウルミュージックや、今では言葉としては使ってはいけないがブラックミュージックが好きという事が根本にあり、その様な音楽好きの観点でコメントさせて頂くと、空間というよりもそのお店、オーナーが持っているポリシーの様なものが出ている選曲だと感じた。歌詞によってはクライアントから NG が出るという事や、Explicit の様な基準が有り、それを避ける時にクリーン・バージョンが有るという事は勉強になった。気持ちの良い曲が並び、元ネタが有る楽曲も有り、60代の私が聴いても良いと感じる楽曲も有った。ラップをどこまで BGM 風を感じるのかという点については、大きい音でラップを聴いていると高揚感はあるが、普通のお店で聴くと違和感を抱くとまでは言わないが、控えめにした方が良いと感じた。「B-16 HIP HOP」は、店舗のオーナーやマネージャー等、うちはこういう空間を作りたいという人達が選ぶと思うが、今の若い人達に聞いてみると、J-POP 以降、ラップバトルは盛り上がってきてはいるが、全体としてはそこまで盛り上がっていないという印象のため、その辺はお店の声、お客様の声を聞いた方が良いのではないかと。また、音楽的な不満はないが、HIP HOP について番組資料に「トップ・ブランドのシーンであり」と記載されていた点に関してコメントしたい。「トップ・ブランド」というとハイブランドのアパレル店と勘違いされてしまうと思うので、HIP HOP に詳しくないデベロッパーやお店の方に説明する時には、あまり音楽の言葉を使わず、「HIP HOP は普通の分野になっていて人気です」という書き方が良いと感じた。さらに問題提起として二点質問させて頂く。まず、BGM としては良いと思うが、カウンターカルチャーとして生まれてきた HIP HOP がこれ程までに骨抜きにされて良いのかと少し引っ掛かったという点。もう一点は、コンセプトに「USEN オリジナル」とあるが、これは何がオリジナルなのか？

【放送局】

この番組はある意味 BGM に寄せている。カウンターカルチャーとして一番軸になる所が骨抜きにされたと仰っていたが、そこは意識している。「B-16 HIP HOP」は、ヘビーなリスナーがイメージする HIP HOP とは少しずれるような、軟派な方向になっていると思うので、そこは見方を変えると USEN オリジナルになる。

【審委員】

もっと気持ちの良い HIP HOP が流れるという事が分かった方が、より多くのお客様に利用して頂けるのではないだろうか。HIP HOP の中でも聴きやすい良い曲を細やかに選ばれていて、統一感を作って流すと、これ程まで新しい空間、空気感を演出出来るのかと感心した。

【審議委員】

「B-16 HIP HOP」は、BGM になりにくい音楽なのでそもそも無理が感じられるが、それを敢えて BGM にしている。私がいづつも言っているのは、番組制作において出口思考が大切だという事で、最近の番組制作はその通りになっているので非常に良いと思う。

【審議委員】

HIP HOP はどちらかと言うと避けてきたジャンルだが、改めて聴くと意外と聴きやすく今までとイメージが全く変わり、寧ろ格好良く感じた。ボリュームを上げたり、ラップのパートになったりするとうるさく感じてしまうので、想定する利用シーンの中では美容院やバー等、コミュニケーションを取る為に行く場所でBGMとして使うには少し難しいのではないかと思う。しかし、全体的にはHIP HOP 入門編の様な、選曲の幅が広く非常に聴きやすい選曲で、格好良いと感じた。インテリアデザイナーとしてデザインをする中で、こういうデザインにすると格好良く見える、これがあると安心というパターンやアイテムの流行が有る。音楽のシーンでは、私が子どもの頃のクラシックが流れる喫茶店は敷居が高く、背筋が伸びるという時代から、ジャズが流れる場所は洒落ているという時代になった。今は「B-16 HIP HOP」の様なHIP HOP を流しておけば、他の店舗と差を付ける見せ方が出来るので、なんとなく格好をつけたいシーンで非常に使えるBGMなのではないだろうか。一方で、全体的にイントロから歌詞が入るタイミングで盛り上がり、ギャップが有るので、BGMとして聴いた時に耳に入り過ぎてしまうのではないかというのも気になった。また、HIP HOP は反社会的・暴力的・性的な側面を持つという事なので、BGMにするには非常に悩ましいジャンルなのだろう。番組資料を見るまで全く知らなかったが、ラップになるとその側面は確かに感じられる。アーティストが過激な表現もしながら、一方ではクリーン・ヴァージョンも作っているというのもどっち付かずで、先程他の委員から“骨抜き”と言われていたがその通りだと思った。「B-16 HIP HOP」は、カウンターカルチャーとしてのメッセージを伝えるというHIP HOPの本質を骨抜きにしてBGMとしてまとめているので、逆に過激な表現を含む楽曲で構成した番組をBGMとして提供するのはUSEN的には駄目なのだろうか？

【放送局】

リニューアル前の「B-16 HIP HOP」に近い内容で、「USEN MUSIC GUIDE」というサイトのチャンネルページに「放送楽曲の一部に過激な表現が含まれます」という注釈を記載していた。しかし、それだと利用シーンが限られてしまう。また、インバウンドの需要が高まり、歌詞の内容が分かる訪日外国人の来店が増える中で、このままの内容で良いのかという危機感も持っていた。USENとしては安心・安全なBGMを提供すべきという判断になり、ひょっとすると聴く人が聴くと本物感が無いと言われるのも覚悟の上で、今の内容にリニューアルする事になった。

【審議委員】

若いディレクターが選曲しているからこそ、こういう番組になったのだろう。私は昔の東と西に分かれて抗争していたギャングスタ・ラップを知っているのでHIP HOPと言うと抵抗感が有ったが、「B-16 HIP HOP」は爽やかで、時に甘さも有り、ネイティブの訪日外国人も感心する選曲になっていると思う。サンプルの中には、最近聴いていて好きなアーティストの楽曲が入っていたり、昔は攻撃的な楽曲を歌っていたアーティストの曲も入っていたり、大変面白く感じながら聴いた。全体的に本当に健全で、長く活動しているアーティスト達の楽曲も、今のHIP HOPはここまで柔らかく、心地良くなったのかと驚いた。ギャングスタ・ラップとは全く違う世界のHIP HOPになっているので、BGMとして使う場合は会話の邪魔にならないし、想定する利用シーンのスポーツジムやバーに向けては最先端で、お洒落で気持ちが良い空間を演出するだろう。

【放送局】

「B-16 HIP HOP」は、文化も含めてHIP HOPが好きリスナーにとっては物足りないだろうというのはご指摘頂いた通りなので、店舗BGMとしてのHIP HOPを改めて検討したい。ギャングスタ・ラップの様な過激な時代のHIP HOPへの二

ーズは今の日本のマーケットには無いと思うが、もし要望が有ればその時代の HIP HOP を放送している「B-8 HIP HOP CLASSICS」という番組をご提案出来る。

【審議委員】

その時代の HIP HOP だけをまとめて聴く事はなかなか出来ないので、「B-8 HIP HOP CLASSICS」は本当にコアなリスナーは喜んで聴くかもしれない。

【放送局】

HIP HOP 自体が時代を経て進化しているという事だろう。続いて、「B-23 ザ・ビートルズ」について審議頂きたい。

【審議委員】

先日、様々な音楽を飲食店内の大きなスピーカーで聴き比べる機会があった。ジャンルも時代も編成も様々な音楽を用意し、レコード、CD、スマートフォン等、流し方も色々変えて聴き比べたところ、どの音楽も流し方によって違って聴こえたが、ザ・ビートルズだけは流し方による違いが殆ど分からず、特別なのだと感じた。そんなことがあった中で「B-23 ザ・ビートルズ」が審議対象となったので、巡り合わせに驚きつつ聴かせてもらった。私はザ・ビートルズの CD を買って聴いた事が無いのだが、知らないアルバムも曲も沢山有るというのに気が付き、非常に新鮮に感じた。ただ、これ以上新作のアルバムは出ないだろうし、今有る限られた楽曲だけでどう一つの番組に作り上げていくのかというのが問題なので、ディレクターの腕の見せ所はどこなのだろうと興味深く聴いた。

「B-23 ザ・ビートルズ」は BGM 性を考慮して楽曲を精査している一方で、お客様の要望を元にリリース年で前期・中期・後期に分けて細かく編成を工夫しているとの事だ。ザ・ビートルズはもっと長い期間活動しているイメージが有ったが、その短い活動期間を細かく分けて編成を工夫しているのは非常に感心した。アルバムをリリース順に全曲並べて完結させる方法も有るだろう。それだけ熱心なリスナーが居るのだから放送されない楽曲が有ると、全曲放送して欲しいという要望も有るのではないかな？

【放送局】

選曲に際し、10 年程前からは BGM 性のプライオリティを高くしている。一時期、個人宅のお客様にも楽しんで頂くという観点から、ヴァージョン違いを含め様々な楽曲を放送していたが、現在は BGM として使いやすいというのを大前提に制作しており、全曲放送して欲しいという要望は頂いていない。

【審議委員】

ザ・ビートルズは小学生の頃から聴いているが、意識して聴いていた訳ではなく自然と聴いていた。今回「B-23 ザ・ビートルズ」を BGM として流しながら過ごしたが、殆どの曲を知っているので昔の事を思い出してしまう。その為、自分の中では BGM にならないが、逆に新しい BGM なのではないかと思った。この番組の凄い所は、ディレクターによって編成が緻密に構成されている点だろう。その点には、文句の付けようが無い。

【審議委員】

雑貨屋等での利用が多いかと思っていたが、カジュアルな飲食店で多く使われているというのが新しい気付きだった。1960 年代から 70 年代までの 10 年足らずの間にリリースされた 213 曲で一つの番組が成り立つというのが凄い。BGM と

して考えると違和感を覚えそうな曲順でも大丈夫と思えるのが彼らの凄さであり、ザ・ビートルズの良さを改めて感じた。ザ・ビートルズに詳しく、思い入れを持っている熱心なリスナーに向き合うディレクターは大変だと思う。放送する楽曲が精査されていて、シャッフル放送される「B-23 ザ・ビートルズ」において、ディレクターの日々の業務は有るのだろうか？

【放送局】

今はもう無い。10 年程前に編成をリニューアルする時にはかなり試行錯誤したが、今の形が完成して以降はご意見やご要望は頂いていない。

【審議委員】

ザ・ビートルズが日本に初来日した時、私は中学 3 年生だった。「B-23 ザ・ビートルズ」は、懐かしい曲が沢山流れ、中学～高校時代にザ・ビートルズをよく聴いていた事を思い出した。飲食店での利用が多いという事だが、確かに飲食店に行くとザ・ビートルズの楽曲が流れている店舗も有る。そういう時、私は郷愁誘われ、昔の思い出が蘇る。50 年以上も前の話だが、ザ・ビートルズが何故ここまで浸透したのか考えてみると、若い人の耳に残りやすい親しみやすさと、心地良く美しいヴォーカルのハーモニーが理由ではないかと思う。50 年以上経っても心地良く聴く事が出来、懐かしい郷愁に誘われて当時の青春時代が思い出されるので、カジュアルな飲食店に合う番組だと思う。

ザ・ビートルズはその活動の間に様々な音楽ジャンルを取り入れ、変化に富んでアレンジが上手いグループだったと思う。前期・中期・後期で 200 曲程の曲数が有るが、上手に編成されている。

【放送局】

前期・中期・後期で音楽的にそれぞれ特徴が有るが、試行錯誤する中で、どれ位のボリュームで前期・中期・後期を構成すると全体として違和感が無いか実際に自分で聴いてみて、最終的に今の形になっている。

【審議委員】

ザ・ビートルズの登場によって、それまでは職業作曲家が書いていた曲を自分たちで書くようになり、レコーディング技術も格段に進歩し、使われる楽器も変わって来た。そういう中で彼らは楽曲を作っていたが、全部で僅か 213 曲しかなく、その 213 曲でも音のバランスが全部違う。ザ・ビートルズは熱狂的なファンが多く、彼らに満足してもらふ番組を提供するためには、「B-23 ザ・ビートルズ」の様に前期・中期・後期で区切ってバランスも工夫した選曲をしないと大変難しい。そういう意味では、非常に良く、音のバランスも上手く配合され、非常に丁寧に作り上げられた良い番組だと思う。サンプルにも大ヒットシングルがちゃんと入っている。やはりそういった楽曲は放送しないと満足はしてもらえないので、その点もよく考えられて作られた良い番組だと思う。

【放送局】

単にリリースされた順番で放送すれば良いという訳ではなく、やはり BGM として提供する責務が有る。無限に有る楽曲の中から選曲するのも一つの BGM のパッケージだが、限り有る楽曲を飽きさせずに聴かせるというのも一つのパッケージだ。

【審議委員】

楽曲を精査せず、全曲網羅しアピールポイントにする事で、逆に番組が使われるようになるのではないかと？

【放送局】

今の編成へのリニューアル以前に、「この曲は暗いから放送しないで欲しい」といったご要望も有り、検討の末、最終的に放送楽曲から外したという経緯が有る。BGM として使って頂きたいという点を第一に考えて、数曲は放送楽曲から外している。業務店ではタイムテーブルで番組を変えているが、個人経営の店舗では気に入った番組をずっとご利用頂いている所が多い。当時の曲は短い曲も多く、200 曲程でも 3～4 時間程なので、営業時間内でも 1 日に数回聴く事になる。また、個人で聴くのと、店内で他にもお客様がいる状態で聴くのとでは、聴こえ方も、空間演出も違うだろう。初期の楽曲と後期の楽曲が連続して放送されることに違和感を覚えたというご意見を頂くという事は、やはり BGM として聴いて頂いているという事だとも思う。今回敢えて「B-23 ザ・ビートルズ」を審議対象としたのは、USEN が 1000 番組以上提供している中で今の内容で良いか、ザ・ビートルズが支持され続けているという事をザ・ビートルズ世代の方に改めて確認したいと思っただけの事だ。

【審議委員】

存在そのものから作品まで、ザ・ビートルズは 20 世紀が生んだ奇跡の様な物だ。他には代えられない。あの 4 人が出会ったという事も、残された楽曲のクオリティの高さも凄い。

【放送局】

時代とお客様の声によってより良い番組にしていきたいと思うので、また進化した時には皆様にも楽しんで頂きたい。